



## 第2回学校評議員会を開催しました

2023年11月7日

本日、学校評議員会を開催しました。開催にあたり、委員の方々に6時限授業を参観していただきました。(写真)1年「生物基礎」内分泌系による情報伝達。

参観後、生徒会役員と学校評議員の方々と懇談(交流)を行いました。今回の懇談で、生徒自ら掲げたテーマは「高校生の品位とは」です。生徒達は高校生の品位とは、“TPO(Time(時間) Place(場所) Occasion(場面))をわきまえ、ありのままの自分の表現”と考え、身だしなみ等の校則に関連づけて生徒目線からのプレゼンテーションを行い、評議員の方々からご意見をいただきました。



その後、本校の課題や現状(教育相談や保健の様子など)について学校側から説明を行い、評議員の皆さんから今日の授業の様子や感想、学校に向けてのご意見・ご提言や要望などをお聞きしました。



その後、本校の課題や現状(教育相談や保健の様子など)について学校側から説明を行い、評議員の皆さんから今日の授業の様子や感想、学校に向けてのご意見・ご提言や要望などをお聞きしました。

その後、本校の課題や現状(教育相談や保健の様子など)について学校側から説明を行い、評議員の皆さんから今日の授業の様子や感想、学校に向けてのご意見・ご提言や要望などをお聞きしました。

## 職員も地域を学びます 2023【売木編】

2023年11月8日

コース制の改編によって地域探究の授業など、地域を学ぶ機会が多くなってきています。阿南高校では“教員も地域について学ぶ”機会として、昨年度から地域を知る職員研修を始めました。本年度は今日(11月8日)売木村と阿南町新野を探究して来ました。

朝学校を出発して「[うるぎHalo!ー岡田屋ー](#)」に向かいました。岡田屋さんは、昨年6月、元旅館を改装・改築してコワーキングスペース&シェアハウスとしてオープンしました。人口約500人の小さな村が誇る自然豊かな環境で、テレワークできる場所としてだけでなく、“地域の拠点”や“地

域と繋がる窓口“を目指したオシャレでレトロな旅館です。静かな小さな売木村でのテレワークは想像以上に仕事が捗ると評判で、今まで



域と繋がる窓口“を目指したオシャレでレトロな旅館です。静かな小さな売木村でのテレワークは想像以上に仕事が捗ると評判で、今まで

にテレワーク利用が約200名、イベントでの利用で約500名の方に利用されているそうです。今日は岡田屋さんを運営管理されている一般社団法人“木の芽”の代表理事 赤土(しゃくど) かよさんに説明・案内をいただきました。興味を持たれた方は、上記の岡田屋さんのリンクをご覧ください。



にテレワーク利用が約200名、イベントでの利用で約500名の方に利用されているそうです。今日は岡田屋さんを運営管理されている一般社団法人“木の芽”の代表理事 赤土(しゃくど) かよさんに説明・案内をいただきました。興味を持たれた方は、上記の岡田屋さんのリンクをご覧ください。

岡田屋さんの次は「[うるぎ国際センター\(UIC\)](#)」です。こちらは、本校の南宮学習塾の講師アレックス

が運営する、築115年の古民家をリノベーションした異文化交流ができる宿泊施設です。海外から訪れる観光客には日本の田舎の生活暮らしを、日本人向けには自然体験や古民家ホームステイを体験できます。とっても明るく気さくなアレックスは、ベルギー生まれのドイツ人で5ヶ国語も話せ、



が運営する、築115年の古民家をリノベーションした異文化交流ができる宿泊施設です。海外から訪れる観光客には日本の田舎の生活暮らしを、日本人向けには自然体験や古民家ホームステイを体験できます。とっても明るく気さくなアレックスは、ベルギー生まれのドイツ人で5ヶ国語も話せ、



が運営する、築115年の古民家をリノベーションした異文化交流ができる宿泊施設です。海外から訪れる観光客には日本の田舎の生活暮らしを、日本人向けには自然体験や古民家ホームステイを体験できます。とっても明るく気さくなアレックスは、ベルギー生まれのドイツ人で5ヶ国語も話せ、

売木村の大自然の中で、楽しく英語(語学)を学ぶことができます。こちらに興味を持たれた方は、ぜひ上記より[ホームページ](#)を訪れてみてください。





## 職員も地域を学びます 2023 【新野編】

2023年11月9日

昨日の地元地域を知る職員研修の続き「新野編」です。午前、売木村の「[うるぎ Halo! 一岡田屋一](#)」と「[うるぎ国際センター\(UIC\)](#)」を周り、午後はお隣の阿南町新野に移動し、まずは「阿南町農村文化伝承センター・阿南町歴史民俗資料館」に向かいました。



祭り街道と呼ばれる県南部の151郷線沿いの村々には、今も数々のお祭り（神事）が伝承されています。伝承センターには、写

真のようにそれらのお祭り等（和合の念仏踊り、新野の雪まつり、新野の盆踊り等々）を展示・説明しています。



また、同敷地内の歴史民俗資料館は、以前この新野の一番の地主であった八連蔵を改造し、昔の山村の暮らしの品々を展示しています。この夏、生徒ともに見学したときの様子を校長ブログにアップしてありますので、[\(2023年8月29日\)『2年「地域探究Ⅰ」で新野の農村文化伝承センターへ行ってきました』](#)をご覧ください。

研修の最後は、標高1000メートルの新野新栄山に



祀られてます即身仏「新野の行人様」の御尊体をお参りして来ました。

今から300数十年前の江戸時代初期1687年に入定

され、生きながら即身仏となり、生きるが如く新野を見守っています。日本でも数少ない即身仏の一つであり、長野県では唯一だそう



御開帳が行われる事もあるそうです。昨日（11月8日）は阿南高校職員そろってお参りし、お祈りして来

です。毎年春4月29日と秋9月の敬老の日の前日に行人様の御開帳が行われています。その他にも特別に



新野が栄えるようにと名付けられた、行人様が居られる“新栄山”の行人堂からの新野千石平を一望

## 3年福祉実習（義肢製作所・血液センター見学）【午前編】

2023年11月9日

3年地域探究コースの福祉系の生徒ですが、本日愛知方面に義肢製作所と血液センターへ校外実習（見学）に行ってきました。まず向かったのは、愛知県小牧市にある株式会社松本技師製作所です。

会社名からもお分かりの通り、医療・社会福祉



を手伝うための義肢・装具・リハビリテーション機器を製作している会社です。義肢や装具の製作場面を見学





## さまざまな義肢や装具



電動車椅子の乗車体験、義足の歩行体験をしました。



今回見学させていただいた松本義肢製作所さんは、創業以来、失われた機能を補い、少しでも願いや



笑顔のため義肢や装具などを製作されてきた会社です。100年余のわたる技術と伝統に加え、最先端の理論やテクノロジーを融合させ、これからも「世界にひとつ」の製品を社会に提供して行ってください。

本日の会社見学、丁寧にわかりやすいご説明等、大変ありがとうございました。

## 3年福祉実習（義肢製作所・血液センター見学）【午後編】

2023年11月10日

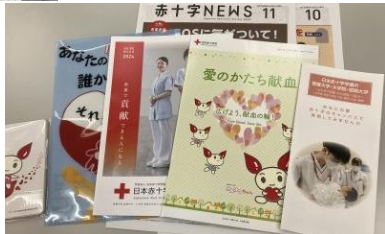
昨日（11月9日）の福祉実習の続編です。

午前の義肢製作所見学後、午後は愛知県瀬戸市にある愛知県赤十字血液センターを見学しました。



赤十字というと、「国際活動」「災害救護」「福祉・医療」・・・「献血」などをよく見かけたり耳にしますね。日本赤十字

社が行っている（9つある）事業の一つに献血を含む「血液事業」があります。今回は東海北陸地区



の血液事業を行っている血液センターに見学に行ってきました。

iPS細胞を使った再生医療など、医療技術が進歩した今日でも

血液は人工的に造ることはできず、善意による献血によって集められた血液から、輸血用血液製剤や血漿分画製剤を製造し医療機関（の患者さんのもと）に届けられています。当センターで献血血液を検査・製剤化・（冷蔵冷凍）保管し、病院や製薬会社へ供給している様子を見学しました。

次の写真はフィルターで血液から白血球を除去したり、遠心分離機（下の写真の洗濯機みたいな装置）で各成分に分離しているところの見学です。

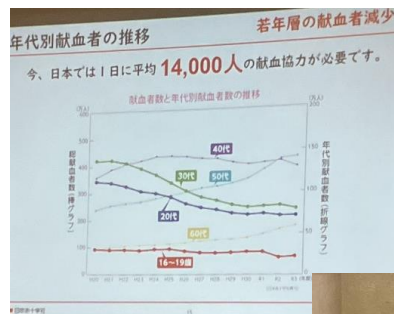
血漿製剤は  
-30℃、血小板製剤は常温（約



20℃）で保管。各製剤ごと保管温度、保管方法、保管期間は異なるようです。

献血で集められた血液というと、ケガや手術の時行う輸血をイメージしますが、それは全体のごく僅かで、多くはガンや感染症の治療に使用されているそうです。特に最近では、血液の液体成分である血漿（約55～60%）の中のタンパク質（血漿の約8%）から作られる免疫グロブリン製剤の必要量が、ここ5年で1.3倍に増えているそうです。

血液事業は、命をつなぐボランティアである献血によって支えられていますが、少子高齢化によって若年層（10～30代）の献血者数は減少し、現在は40代



50代に支えられているそうです。（写真のスライドを参照）グラフの次の写真は、何回も献血された方への記念品

です。令和2年から献血回数10回・30回・50回に到達した方への記念品の種類が増え、好きなものを選べるようになったそうです。



お恥ずかしながら自分はこのかた献血は1度しか経験がなく、自発的に無償で自分の血液を提供されている方に頭が下がる思いでした。

今回の校外福祉見学ですが、自分にとっても大変多



くを学んだ研修となりました。

## 下伊那実験研究会 @阿南

2023年11月22日

今週、月火水の3日間で2学期期末考査が行われました。生徒の皆さんがテストを行っている間の昨日

(11月20日)ですが、阿南高校を会場に、『下伊那実験研究会』が行われました。飯田下伊那の高校の理科助手の先生方が集まって、日頃の経験などから、より操作しやすく、より結果が分かりやすい工夫をあれこれ試行錯誤しながら、実験の研究を行いました。その中の、【酸化・還元と電子の流れ】と【硫黄の同素体】を研究しているところに参加させていただきましたので紹介します。

### 【酸化・還元と電子の流れ】

ちょっと難しい話になりますが、片方で電子を失い(=酸化)、もう片方で電子を受け取る(還元)ことによって、電子は流れます。(これが電池の原理となっていますね。)今回は、時間とともに酸化と還元の電子の授受(失う・受け取る)によって、赤紫色の電極(過マンガン酸カリウム水溶液を浸したろ紙を巻いた方)に色の変化が見られ、電圧計だけでなく視覚でも確認する実験を見せていただきました。

### 【硫黄の同素体】

先ず、おさらいしましょう。同じ元素だけど、性質が異なるもの同素体と言います。例えばダイヤモンドと木炭や石炭、酸素とオゾン、といったものです。今回の主役は硫黄(S)ですが、身近にあるものではないのでピンと来ませんが、硫黄の同素体には“斜方硫黄”“単斜硫黄”“ゴム状硫黄”があります。

ゴム状硫黄ですが、学校でよく使う硫黄の試薬で実験を行うと、たいいていこげ茶色の汚い色のゴム状硫黄となってしまいます。硫黄らしい美しい黄色のゴム状硫黄を作るには、高純度の特級試薬(99.5%以上)を用いると、写真のようなゴム状硫黄が作れるそうです。続けて、斜方硫黄の再結晶化にもチャレンジしました。

学校で何気なく行っている実験も、このような先生方の日頃からの創意や工夫などのおかげで行われて



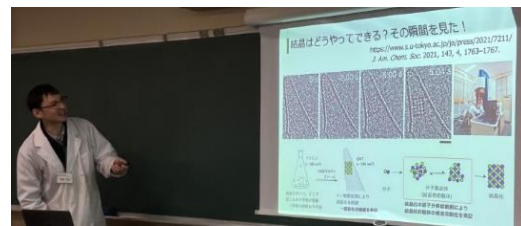
いることに、心から感謝いたします。これからもアイデアを持ち寄り研究しあって、楽しくて分かりやすい実験をお願いします。

## 飯田コアカレッジ模擬授業&信州大学出前授業

2023年11月24日

11月22日(水)、2学期期末考査最終日のテスト終了後、2年生の進学希望者(25名)対象に、(高校卒業後の)上級学校の先生にご来校いただき、模擬授業・出前授業が行われました。

飯田コアカレッジからは、校長の牧島 晃 先生とITスペシャリスト学科の渡辺優希 先生に、信州大学からは、信州大学の理学博士 伊藤 冬樹 教授に理科化学を講義していただきました。写真は、後者の理科化学の出前授業です。

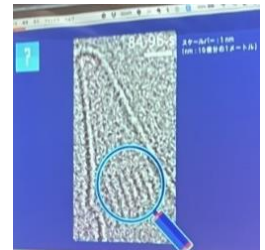


授業のテーマは「結晶化」です。身近な結晶というと食

塩(主成分はNaCl(塩化ナトリウム))を思い起こしますね。無秩序な(イオンの)集合体の食塩水から、秩序ある原子の並びの結晶(個体)に変わる瞬間を捉えた写真・映像を紹介していただきました。研究は、東京大学の研究グループによるもので、なんでも世界初だそうです。[\(詳しく知りたい方は、東大のホームページをご覧ください。\)](#)

生徒からも「おお〜」と感嘆の声が上がっていました。

特殊な顕微鏡(2枚目の右上)とノイズを除去するためのソフトなどを駆使して、原子レベル(ナノの世界)で、結晶のできる瞬間を解明(映像化)したそうです。



さすがに原子レベル(ナノの世界)の観察は高校ではできないので、伊藤先生は見てよくわかる「[試験管内で雪を降らせる実験](#)」=塩化アンモニウム(NH<sub>4</sub>Cl)の再結晶化を実演しを見せていただきました。それがこちらです。

本物の雪ではないです。試験管内で白い結晶(=塩化アンモニウム)が生まれ、静かに沈



んでいくのが雪のように見えるため、このように呼ばれています。生徒は食い入るように眺めていました。

飯田コアカレッジの牧島校長先生、渡辺先生、信州大学 教授の伊藤先生、今日は生徒のた



めに模擬授業(出前授業)、ありがとうございました。

## 秋季クラスマッチ②

2023年11月29日

本校では、クラスマッチは年3回行っていますが、秋のクラスマッチは9月と11月に行っています。今日は「秋季クラスマッチ②」ということで、男女でそれぞれバスケットボールと男女混合でグランドゴルフを行いました。グランドゴルフは今回初めての試みで、6ホールで



競い合いました。男女一緒にプレーでき、ほのぼのと和気あいあいに楽しめとても良かったと思います。自分も参加させていただきましたが、なかなか思う通りにはいかず、特に近づいてからが結構難しく、玉がポストを何回か通り過ぎてしまうこともありました。

一方、体育館のバスケットボールでは、白熱した試合が繰り広げられ、クラスメイトへ熱が入った声援が響いていました。



閉会の表彰式後はクラスごと集合写真を撮る姿が見られました。特に3年生の皆さんは、高校での生徒会行事もこれで最後ですので、高校生活でのいい思い出の1ページが作られたのではないかと思います。



閉会の表彰式後はクラスごと集合写真を撮る姿が見られました。特に3年生の皆さんは、高校での生徒会行事もこれで最後ですので、高校生活でのいい思い出の1ページが作られたのではないかと思います。



新体育委員会の皆さん、皆さんにとって初めての生徒会行事の企画運営でしたね。苦勞もあったかと思いますが、ご苦勞様でした。(また、陰で支えていただいた体育科の先生方、ありがとうございました。)

## ライフプランを考えよう!! (3年生 LHR「金融学習」)

2023年11月30日

今日の3年生のLHRでは、飯田信用金庫のマネーアドバイザー松村さんにお越しいただき、「ライフ

プランを考えよう!!」と題し、お金について出前授業を行いました。学校でお金の話?ましてや「投資」の話なんてどうなんだろう・・・

これまでも高校では「クレジットカードやローンについて」だとか「だまされない、トラブルに巻き込まれない」などといった消費目線の教育(講義)はありましたが、将来を見据えて「資産を運用する」という投資目線の教育へと、2022年度の学習指導要領の改訂により、大きく変わり始めています。

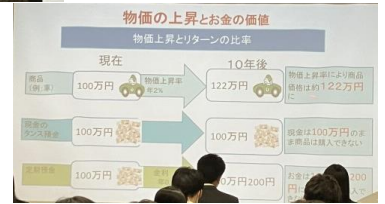
授業の前



半は、皆さんがこれまでに育つまでにかかった(使われた)お金についてや、これからの人生に

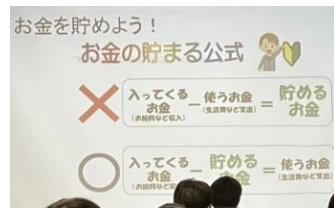
おいての3大イベント

(マイホーム購入、子どもへの教育費、老後生活資金)についてなどをスライドを交



えながら確認・学習しました。それにしても当たり前にも思っている人生って、本当にお金がかかりますよね。

最近では、コロナやウクライナ問題、そして円安といったことが関係して、あらゆるものの価格が値上がり



しています。いやゆるインフレが生じていますね。

にもかかわらず、バブル崩壊後日本では低金利政策が続き、銀行の金利は

限りなく0%に近い状態が続いています。つまり、蓄えたお金が物価高で目減りしてしまうのです。

そこで、将来を見据え、蓄えを増やす一つの方法として資産運用の話となっていきます。

金融広報中央委員会の『金融教育プログラム』では、いきなりお金儲けの話に飛びつくのではなく、金融教育とは「お金や金融のさまざまな働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育」と解説されています。

高校生の皆さんには、これからの人生、きちんとした正しい知識を身につけて、自己で判断し行動して欲しいと願うばかりです。

大切なお金、大事に使いたいですね。